

様式

第8期高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画 市民意見公募によるご意見・回答表

NO	提出された意見（概要）	対象事案に反映 する：1 一部する：2 しない：3 一部反映：4 反映済み：5	市（実施機関）の考え方
1	<p>これからの「高齢者福祉」と地域活動について</p> <p>これからは健康な高齢者が働ける場所の確保並びに高齢者相互扶助のシステム作りなど、高齢者の活力や発想力を生かす試みが提案され地域で実施されてくる。これらを発展させるためには、地域における福祉活動や相互扶助活動と、行政の指導助言並びに財政援助とが連携することが必要である。その連携で、行政の壁となる「財政の限界」をこえる本来の福祉が可能となる可能性がひらかれる。</p>	5	<p>ご意見の中に述べてあったとおり、自治会会員の急激な高齢化により、地域活動（自治会活動、小地域福祉会活動）は、今後どのようにあるべきか問われていると思います。住み慣れた地域で安心して人生の最期まで自分らしく暮らせるようにするため、生活支援体制整備事業を拡充し、支えあいの仕組みが広がるようにしていきます。また、協議体では、高齢者だけでなく、子どもも障がい者も、みんなが暮らしやすい「共生社会」をめざしています。</p>
2	<p>認知症カフェについて</p> <p>認知症カフェは、認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場である。国の新オレンジプランにも、認知症カフェの設置が目標としてあがっている。福津市としても、計画内の「認知症施策の推進」に認知症カフェについて記載し、その普及について明確化してはと思う。</p>	1	<p>計画書の「認知症施策の推進」において、認知症カフェについて、下記の内容で記述を追加します。</p> <p>また認知症の方やその家族が地域で孤立せずに気軽に集える場所として、認知症カフェ等の開催・普及を支援します。</p>

3	<p>市民みんなの「合葬墓」について 核家族化や単身世帯の高齢者が増加する現在、更に 10～20 年先には団塊の世代がいずれ終末期を迎える。子や孫の迷惑になることで墓を望まない、継承者がいない、墓石が高額、公営納骨堂は満杯で経済的に対処できないなど「合葬墓」の希望は増えている。市民のための合葬墓建設の検討をお願いします。</p>	3	<p>高齢者の福祉に関するご要望で、住み慣れた福津市で人生の最期まで安心して暮らしていくには、お墓のことは大きな問題であると考えます。子どもがいない、また子どもにお墓のことで迷惑をかけたくないという思いの高齢者も増えています。 市では、市営納骨堂が老朽化していることから、納骨堂のあり方について検討を行う予定です。その過程で「合葬墓」についても検討すべきと考えます。</p>
4	<p>協議体に関する記載の充実について わかりやすい図の多用について 下記のような意見を反映し、計画書の記載を充実すべきだと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ささえ合いの協議体は民間業者の参加や協力がありその役割は大きい。 ・ 協議体と郷づくりが一体になると大きな動きになると思うので、郷づくりへの働きかけをするといいと思う。 ・ やりたいことを実現させるための協議体である。 ・ 各地区に生活支援コーディネーターを置く。 ・ 協議体や生活支援コーディネーターを中心に、包括や社協等も加えた図があるとわかりやすい。 ・ 協議体に関する部分以外に、例えば在宅医療・介護連携などにも図があるとわかりやすい。 	2	<p>生活支援体制整備事業を拡充していくため、市民の皆さんが協議体や生活支援コーディネーターについて理解が深まるような内容、記述にします。いただいた意見で反映できるものは文章表現やこれまでの歩みなどを追加し、図の挿入を行います。 協議体に関する部分以外においても、市民の皆さんが読んで理解いただける計画にしていいため、図を多用します。</p>